

視察報告書

令和5年10月24日（火）から25日（水）まで、自主研究グループとして行政視察に神奈川県藤沢市に出張（視察）しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

令和5年11月8日

美祢市議会

議長 竹岡昌治 様

自主研究グループ

代表 杉山 武志
山中 佳子
秋枝 秀稔
猶野 智和
田原 義寛
山下 安憲

1 出張（視察）の目的

次にあげる課題解決に係る問題点探究に資するため。

教育

課題

少子化による小学校の複式化に於ける学力の低下を危惧する市民も少なからずおられ、教育の在り方・美祢市独自の教育が求められている。

また、日本教育の「教え学び身に着ける」形から「自分が取得したい物を取得していく」形に変わろうとしている。

問題点

課題を解決するにあたり、現行教育カリキュラムの中に美祢市独自の教育を組み入れられれば良いが、現時点においては困難と思われる。

本市に於いては、先進的な教育理念を持つ慶応義塾大学藤沢キャンパスの長谷部教授との連携による公設塾「mineto」を開設しており、この場にカリキュラムを導入出来ないか検討する必要がある。

また、新たな手法として長谷部研究室は全国に数カ所分室的な施設を設け国際的な教育を進められており、美祢市への設置を検討されていることから現状把握と展開の可否を調査すべきと考える。

災害対策

課題

本市は平成21年に豪雨災害が発生し、厚保地区に於いて家屋の水没等甚大な被災を経験しており、本年6月末の豪雨による被災は1名の行方不明者を始め市道・橋梁・市管理河川護岸121件総額24億200万円に上っている。

また、河川氾濫によりJR美祢線も崩壊し、被害総額は60億円とされている。

これにより河川の改善・水流を抑止する政策が求められている。

問題点

平成22年本市下流の厚狭地区において満潮と重なり河川が氾濫した。

厚狭川全域の護岸拡幅若しくは川底を深くすべきと考えるが、山口県の管理でありまた岩盤・民家の隣接等困難を極める。

この様な事象発生に備え「遊水地」を設ける市町が有り、手法としては低い位置に公園やスポーツグラウンドを設け災害時に活用するもの又は隣接する水田を補償し活用するものと有るが、提言するにあたり調査検証をする必要が有る。

また、視察内容の詳細及び各々の所感は別添とする。

視察内容

別紙

視察先及び対応者	視察目的	視察内容
慶応義塾大学 藤沢キャンパス 環境情報学部 長谷部葉子准教授	1 学生の研究活動視察依頼 2 長谷部研究会秋芳分室構想の可否及び美祢市賑わい創生・定住促進の可能性検証	民家定住による農業・加工生産業への従事及び地域を巻き込んだイベント等開催状況並びに学生間の情報共有施策の現状確認
神奈川県立 境川遊水地公園 副園長 伊藤 航	豪雨災害に係る水害対策 1 施設概要 2 運用方法	1 遊水地公園設置に係る経緯 2 施設各機能の検証 水害対策機能 ビオトープ研究機能 運動施設活用機能 3 施設管理運用方法

所感

1 日目に訪れた S F C（慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス）では、長谷部葉子准教授と、彼女の元で学ぶゼミ生に案内していただきながら、視察した S F C は、総合政策学部・環境情報学部の 2 学部から構成され、敷地内に大学院等もただずんでいる。

この日は、各学部の教室、長谷部研究室、食堂や図書館、大学院棟を見せていただいた。

学生は、閉塞感のない、のびのびとしたキャンパスで、朝一から 22 時くらいまでの各授業、空きコマを利用したクラブ活動やゼミ活動・自習・アルバイトなど、濃密なキャンパスライフを充実した面持ちで送っていた。

そして、そんな学生の数人と話をしてみると、目の前のやるべきことを淡々とこなしながらもなお興味を持った事象に没頭している姿があった。特に環境情報学部の学生によると、「環境」とは、身の回りにある全てが環境であり、「情報」とは、自分の五感で得ることのできるもの全てが情報であるというスタンスがあり、そう捉えながら情報処理だけでなく農業や建築に至るまで、幅広く取り組む姿勢に感銘を受け、ここに閃きを感じた。

2 日目は神奈川県立境川遊水地公園を訪れた。遊水地とは、河川が増水した時に、河道からあふれた水を一時的に貯水し、下流の洪水被害を軽減させる場所である。日頃は、運動公園やビオトープとして住民に愛される施設となっている。今年発生した美祢市豪雨災害を教訓に厚狭川流域での遊水地設置のヒントになればと思い真剣に視察した。

問題は、山に囲まれた厚狭川沿いに減災できるだけの用地が確保できるかである。